

### 故岡野學長一週年追悼式

去る十二月廿二日は故中央大學學長岡野博士の一週忌日に相當したるを以て中央大學に於ては當日教職員、同大學評議員、學員及學生諸氏相寄りて岡野家遺族の方々を始め同家親族並に六樹會員諸氏を招きて午後一時より追悼式及追悼演說會を開催したり當日大講堂正面の壇上に故學長の遺影を安置し佛式に依りて祭壇を設け定刻來會者の着席するや馬場學長は徐ろに靈前に進

みて左の追悼文を朗讀せられ

嗚呼我が中央大學前學長岡野先生の館を捐てたまひしは正に去年今月今日に在り歳華一週して思慕愈々切を加へ温容髣髴として目睫の間に存す願れば大正六年中本學の校舍累ねて回祿の殃に罹り奥川學長亦俄に逝き善後の處理眞に容易ならざるものあり先生此多難の時を以て學長の任に就き偏に人才を育成し邦家を裨補するを以て念と爲し至重の公職を佩ふるの身を以て夢寐本學を維れ慮り漸次創痍を瘳し校基を鞏くし大に質實剛健の學風を揚げ彬彬有用の材を社會各方面に送る凡そ本學今日の隆運を開きたるもの固より積累蘊蓄の力に賴ると雖先生の指導に負ふ所極めて大なりと爲す最近校舍を斯地に移し雄大莊宏の規模を立てたるは實に先生在世中の經畫に係り薨去後僅に半歳にして工事竣成を告ぐ今日親しく先生の温容を此新設講堂に拜する能はずして却て英魂を迎へて哀を致すが加きは吾人の會て夢想せざりし所にして情迫まり感極まり徒らに人生の無常を嘆ずるのみ嗚呼已みなん哉已みなん知らず先生の英魂今將た那れの處に宿りたまふぞ冀くは常に本學を照鑑し以て永へに其の前途を冥助したまはんことを茲に一週忌辰に丁り恭しく辭を獻し英魂を弔し追悼の微

忱を致す

大正十五年十二月二十二日

中央大學學長

法學博士 馬場 愿 治

次に教授及講師代表者として教授堀江專一郎氏は左の如く

今月今日我中央大學學長故岡野先生小祥の期に丁り清酌庶羞の奠を設けて爰に先生の英靈を祭る先生實を易へてより馨暖尙耳に在り風姿恒に目に新なるの間烏鬼匆忙早く既に一歳を闕し悼惜の情益々深きを加へ追慕の念轉々切なり謹んで惟るに學者事務に通せずとは古來人の傳ふる所なりと雖も斷じて然らず眞に知る者は能く行ふ者なり寒へさるものは未だ寒を知らず痛み了して始めて好く痛を知る此故に事務に通せざる者は眞の學者に非ざるなり先生の世に在るや高遠の識忠誠の資洵に棟梁の材たり其の學を諸生に授くるや逸才碩學門下に輩出し國の樞機に參しては立法に司法に將た行政に歷る所赫々の功を留め更に餘力を割て本學の經營に任し施設の方針より錙銖の收支に至る大小輕重悉く自ら究めて後之を行ひ能く余等の言はむと欲して言ふ能はざる所を言ひ爲さむと欲して爲す能はざる所を爲し以て鴻業の基礎

を確立し所謂爲すとして成らざるなく行くとして可ならざるなきもの眞個學者の大本領先生に於て之を見る矣今や人心漸く荒み世道日に非にして達識熱腸の士宜く巨腕を揮ひ以て狂瀾を將に倒れんとするに回さざる可らざるの秋往て之を先生に懇へんと欲すれとも得ず哀惜何ぞ堪へむ悲痛止むなし然りと雖も獨り我大學は爾來當局其人を得先生の遺業着々其歩を進め今や校舎の新裝畧々成を告げ將來の雄飛期して俟つべく聊以て先生在天の靈を慰むるに足らむ歟先生固と讚美を好まず蕪辭或は忌諱に觸るゝなきかを憂ふ而も言はざらんとするも言はざる能はざるものあるを奈何せん仰き希はくは英靈寬恕を垂れ彷彿として來り饗けよ

大正十五年十二月二十二日

中央大學教授總代

法學博士 堀江專一郎

次に學員會代表者として同會理事長西川一男氏は左の如く

前中央大學學長岡野先生薨去せられてより一星霜を経本日をして追悼式を舉行せらる新愁の情轉々切なり惟ふに先生は國家の重器に居り王事に盡瘁せられ功勳赫々として世人の齊しく讚仰する所なり先生又

育英の事を念とせられ我中央大學學長として拮据經營董督の任に當らせ給ひ本學の今日ある先生に負ふ所甚だ多し殊に大正十二年九月大震災勃發するや本學亦其の厄に遇ひ一時休校するの止むなきに至りしも先生毅然として忽ち應急の策を講じ須臾にして授業を開始し學徒をして惑ふ所なからしめたるは吾人の驚喜して其の偉績を歎賞せし所なり爾來復興に心血を濺かせられ遂に駿河臺の地を下して校舎を新築し永遠の基礎を固むるの計畫を樹て其の緒に就かんとするに際り溘焉として黄泉に赴かせらる痛悼曷ぞ勝へん然りと雖馬場學長を首め有力なる理事者の在るあり先生の遺圖を承けて既定の大業を遂行し今や其の工を竣へ堂堂たる校舎は駿臺に聳え校運益々隆昌ならんとす先生亦以て冥すべき哉英靈冀くは護校の神と成り永へに本學の幸運を導き給はんことを先生は又我學員の師表たり學員一同先生を敬慕するの念極めて厚し先生夙に本學の校是とする質實剛建の氣風を以て學員を率る實踐躬行其の範を垂れ學員の嚮ふ所を示させ給ふ其の恩山よりも高く海よりも深し是より以て往克く其の遺訓を體し心を一にして本學の爲に力を戮せ誓て大成を期し以て高恩に報いと欲す英靈夫れ之を鑿みたまへ吾人此の式に陪する

の光榮を有し追懷禁する能はず學員一同に代り敬みて哀悼の意を表す

大正十五年十二月二十二日

中央大學學員會理事長

西川 一 男

尙ほ學生代表者として經濟學部三年生中田菊太郎氏は左の如く追悼文を朗讀せられたり

維時大正十五年十二月廿二日前學長岡野先生の一週忌に當り爰に追悼式を舉行せられ敬慕の情新なるものあり伏して惟みるに外生學徳共に一世に高く生等六千の學徒仰きて以て師表と爲し親みて以て慈父と爲したる所なり蓋我校運の隆昌にして校風の崇高なる是れ實に偉大なる先生の德澤及徳化に外ならずと謂ふべし而して今や先生の遺圖に成る新校舎落成し雄大宏壯を極むると共に我が學徒の意氣亦學園に溢る此時に當り生等は先生の讐咳に接して教を受くるに山なく追憶の感轉た禁する能はず唯夫れ生等は常に遺教を咀嚼して校風を發揚し以て生前の恩愛に報ゆる所あらむことを期す英靈庶幾くは永へに生等を照鑑せられんことを

中央大學學生總代

中田菊太郎 謹白

斯くて馬場學長、遺族及親族、六樹會代表者矢野恒太氏、教授代表者堀江專一郎氏、學員會代表者西川一男氏及學生代表者中田菊太郎氏の順序にて焼香了つて一同起立し禮拜す次て男爵岡野節氏小學校制服姿にて壇上に立ちて謝辭を述べらる來會者爲めに面を蔽はさるなし右にて式を終へ續いて追悼演說會に移りたるが先づ馬場學長は起ちて左の如く挨拶を述べられ

來賓各位、教職員竝に學生諸君、回顧いたしますれば我大學前學長岡野男爵が薨去せられましたより四十九日、百个日も夢の如くに過ぎ去りまして、今日は正にその一週忌日に該當いたします、本來なれば岡野男爵の追悼會はとうに舉行せぬければならぬ筈であります、然るに今日この日を卜して追悼會を舉行いたしました理由は何か、我々も疾うにこれを舉行せぬければならぬといふ事は承知して居つたのであります、或理由がありました爲に遂に今日まで在りませんでした次第であります、その理由は他でもありません、大正六年六月と思ひますが、舊校舍が回祿に罹りまして全焼いたしました、間もなくその當時の學長たる奥田男爵は逝去せられました、その後を受けて岡野學長が就職せられました、頗る經營の困難な際でありました、先づこの火災の復舊を圖らぬければなら

ぬ、然るに従來の敷地といふものは狹隘にして十分な復舊を圖ることが出来ませぬ、それで隣接地を買収することの計畫を立てこれで敷地を買収し、圖書館を作り、舊焼けた後には改築をいたしました、其から更に新たな校舍を二棟建築したのであります、然るにまた御承知の通り大正十二年の大震災に遭ひまして、幸にして圖書館と新校舍の棟だけは安全にこれを保持することが出来ましたけれども、その他は總て――大半であります、焼失いたしました、これが復舊事業といふものは容易ではありません、極めて困難なる事業で、殊に市區改正の關係上従來の敷地の一部といふものはこれを縮少せぬければならぬ、それ故に到底舊敷地には復舊事業を完成することは出来ぬといふことを前學長は慮られました、新たにこの戸田邸――この屋敷であります、この戸田邸の跡を購入せられて新規に校舍を建設し、併せて圖書館を建設するといふことの計畫をせられて購入も既に出来、設計も既に成立つて正に建築請負の入札を行はんとする際岡野前學長は二豎の冒すところとなつて遂に逝去されました、實に遺憾この上もない次第であります、我々前學長の許に於て先生の計畫に參與して居ります時にも總て計畫といふものは先生の努力になつたもの

でありまして、この新校舎になりました、この新校舎に於て先生を見ることが出来ない、先生に於てもこの新校舎の落成を見ることを得ずして逝去せられたといふことはどれだけ遺憾に思はれて居るか、想像することも出来ない程である、承ればいかに男爵が病床に於てこの校舎の復興に就ては非常に心配せられて、居つたといふ事を私は傳へ聞きました、實に先生のこの學校を思はれるの念の深く、またこの學校の落成を見ずして先生が逝去されたことは實に残念至極に堪へない次第であります、この新校舎と先生との關係斯の如く深いのであります、私共に於きましては何うしてもこの先生をしてこの學校に御來臨を願つて、在天の先生の英靈の天下られん事を願つて、而して先生によくこの建物の實見を請ひまして、さうして先生の御満足を得たい、斯ういふ事を考へて居りました、然るにこの校舎といふものは漸く今年の八月末日に落成をいたしました、その間既に四十九日も過ぎ、百日も経過して、遂にこの一週忌に於きまして、こゝに追悼を擧げるといふ、斯ういふ事に相成つた次第であります、今日追悼式を擧げました理由はこゝにあるのでありますから、どうぞ皆様の御諒承を願つておきます、思ふにこの祭壇の上には前學長男爵岡野博士は必

ずや天かけりつゝ御降臨下さつて居ることを私は疑ひません、眼には見へませんが必ずや諸君に對して温顔を以て接し諸君に御挨拶をなされて居るといふやうに私は感じます、この先生の英靈の目前に於きまして、是より先生の追悼演說會を開かういたします、而して先生の高き徳、深き學、而して本學、學界、國家の爲に效されましたところの偉大なる功績を追懷しまして、而して先生を偲ひたいと存じます、ただ惜らくは時間に制限がありました、多數の御演說を願ふことが出来ないのを遺憾といたします、これより各方面の代表的の御演說を願ひますから、滿堂の諸君に於かれましては、御靜聽あらんことを希望いたします、尙終りに臨みまして私は一言お禮を申したいと思います、岡野男爵家に於かれましては今日は一週忌の法要を営まるゝ日であります、極めて御多忙の日である、然るに拘らずお練台の上お揃ひでこゝに御出席下さいましたことは誠に有難う存じます、それからその他の各位に於かれましては年末御多忙の際なる

に拘らず多數御出席を下さいまして、これまた有難う存じまする、私は本大學を代表いたしまして厚く各位に向つてお禮を申し上げます(拍手)

亞て松本悉治、花井卓藏、窪田靜太郎、美濃部達吉、山田三良、矢野恒太、栗原廣太の諸氏交々起つて各方面より觀たる故人の學徳を稱揚し故人生前の面目を眼前に彷彿たらしめたり吾人は追つて其速記を本誌に掲載すへし當日の出席者は來賓たる岡野未亡人、岡野節、岡野尙子、岡野澤子、岡野貞子、新井阿起子、尾崎敬義、高木陸郎、栗原廣太、窪田靜太郎、矢野恒太、山田三良、齋藤力、宮田光雄、三宅徳業、清水澄、乾孚志諸氏の外馬場愿治、花井卓藏、卜部喜太郎、松本悉治、永瀧久吉、佐藤正之、美濃部達吉、土方寧、森本邦治郎、鹽谷恒太郎、太田資時、青山衆司、片山義勝、桑田熊藏、西川一男、馬場鍊一、小松林藏、小倉敬止、中山佐市、田中文藏、武田明、高野金重、河野秀雄、堀江專一郎、二神駿吉、高窪喜八郎、廣井辰太郎、堀竹雄、吉田久其他の大學評議員及教職員學生を併せて千有餘名に達し近來稀れに見る盛大なる追悼會なりき